



やすぎ和牛 全国共進会へ 能義和牛育種組合



和牛のオリンピックへ出場

9月7日から宮城県仙台市で開催される日本最大の和牛品評会「全国和牛能力共進会」に向け、能義和牛育種組合に所属する市内の畜産農家が奮闘中です。共進会は5年に一度開かれることから「和牛のオリンピック」とも呼ばれ、全国から代表牛が集い、5日間にわたり出品区ごとに定められた項目を競います。

6月29日に行われた島根県最終選抜審査会で、同組合の4頭が見事に県代表として、全国大会への出品が決定しました。県代表となった4区系統雌牛群は、地域の特色ある系統を受け継ぐ4頭の雌牛(みつわ系)を一群として審査。体積や体つきなど、通常の審査項目に加え、系統の特色(体の伸び、体の品位、乳微)や群としての秩序、同一性も審査対象です。大会への準備は3年前の種付けから。産まれた雌が少なかったり、生育が安定しなかったりと多くの苦難を乗り越えての全国大会に農家の喜びもひとしおです。出品農家で能義和牛育種組合副組合長の清山高康さんは、「無事に4頭とも全国大会に出品できるまで育てることができた」と胸をなで下ろします。

由緒ある血統を守り継ぐ

市内の畜産農家89人で組織する能義和牛育種組合では、「彦右衛門蔓牛」の血統を受け継いでいます。明治33年に伯太町井尻の妹尾彦右衛門が紺屋蔓の流れを汲む雌牛を安来



▲県の最終選抜審査会に出場した畜産農家と関係者の皆さん。

に持ち込み改良したことからこの名で呼ばれることになりました。昭和52年の第3回全共(宮崎県)では、この系統で出品した広瀬町の5頭がグラウンドチャンピオンに選ばれるなど全国でも有名に。特徴は①母乳が十分②温和で子育て上手③連産長寿などで経営に適した特徴を持っています。最終選抜会では、体格、毛並みともに美しく、堂々とした立ち振る舞いを見せた4頭。大会までにさらに磨きを掛けて全国へ向け調整します。清山さんは「大会まで体調管理や飼養管理に気配りしながら調教に励んでいます。全共でやすぎ和牛を全国にPRしたい」と話していました。

編集後記

▼7月31日、新庁舎での業務開始と同時に現庁舎が役目を終えます。現庁舎建設時(昭和31年)の広報紙には、近代的なモダン建築に市民が大いに喜んだと記載してありました。当時は最先端の建物だったようで、田園風景に立つ白亜3階建のコンクリート建築に人々は明るい未来を感じたことでしょう。61年間おつかれさまでした！(山)

▼島根が舞台の映画「たたら侍」をご覧になりましたか。詳しくは紹介できませんが、時代劇なのに現代でも起こり得るストーリー。撮影地が島根で、題材がたたらという単調な映画ではありません。「本物があることは素晴らしい」。県民、とくに若者に向けた監督のメッセージ映画ではないかと感じました。(の)

安来市の人口と世帯数 H29.6.30現在

人口合計 / 39,574人
(男:18,962人 女:20,612人)
世帯数 / 14,235世帯

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用